

第一回定例会 一般質問
教育のあり方について、
市の方向性と
現場の状況を踏まえ
「学校教育」の考え方を
展開する。

第一回定例会 一般質問

TOPIC

- ◎愛子地区バス停留所の新設について
- ◎落合児童館改め、栗生児童館 平成29年4月開館
- ◎平成28～29年度 施工箇所一覧表

TOPIC

平成28～29年度 施工箇所一覧表

※平成28年12月1日現在で契約中及び発注予定の工事

平成28年12月1日 宮城総合支所道路課

No.	工事件名	施工場所	金額 (千円)	工期	工事概要			
					工種	延長(m)	幅員(m)	設計概要
1	(市)高畑定義線(高畑工区)道路改良工事(1工区)	青葉区大倉字海老沼地内	44,874	H28.3.8 ～H28.12.15	道路改良	290	7.5	擁壁工、舗装工
2	(市)高畑定義線(高畑工区)仮橋設置工事(その1)	青葉区大倉字高畑地内	359,990	H28.9.2 ～H29.3.31	道路改良	-	-	仮橋設置 2橋 (A=1,632㎡)
3	(市)高畑定義線(高畑工区)仮橋設置工事(その2)	青葉区大倉字高畑～海老沼地内	410,400	H28.9.29 ～H29.3.31	道路改良	-	-	仮橋設置 2橋 (A=1,539㎡)
4	(市)愛子赤坂線(愛子工区)歩道整備工事2	青葉区愛子中央一丁目～二丁目地内	44,539	H28.8.8 ～H29.3.31	道路改良	224	12.0	側溝工、舗装工
5	(市)愛子赤坂線道路付帯工事	青葉区愛子中央一丁目地内	-	1月発注予定	道路改良	200	-	側溝工、舗装工
6	(市)落合四丁目1号線道路新設工事	青葉区落合三丁目～四丁目地内	55,629	H28.9.2 ～H29.3.31	道路改良	142	5.0	擁壁工、側溝工、舗装工
7	(市)綱木半子町線側溝整備及び災害復旧工事	青葉区芋沢字黒森山地内外	10,741	H28.9.29 ～H29.1.27	側溝整備 災害復旧	178	-	側溝工、法面工
8	ラ・サンタ駐車場整備工事	青葉区作並字元木地内	8,532	H28.10.13 ～H29.1.31	舗装	-	-	舗装工
9	(市)十里平線(屋敷平工区)道路防災工事	青葉区大倉字屋敷平地内	28,080	H28.7.11 ～H28.12.20	道路防災	40	-	ロックネット工、ローネット工、大開口部形成型落石防護網工、重力基礎式
10	平成28年度(市)赤坂明神線(横前工区)舗装改修工事	青葉区芋沢字横前地内	8,672	H28.11.15 ～H29.1.25	舗装改修	95	5.9	舗装工
11	平成28年度(市)綱木半子町(南吉成二丁目工区)舗装改修工事	青葉区南吉成二丁目地内	9,210	H28.9.27 ～H28.12.15	舗装改修	180	6.0	舗装工
12	平成28年度(一)泉ヶ丘熊ヶ根線(大原工区)舗装改修工事その2	青葉区熊ヶ根字大原地内	-	12月発注予定	舗装改修	158	7.1	舗装工
13	平成28年度(一)泉ヶ丘熊ヶ根線(菅谷地工区)舗装改修工事その3	青葉区大倉字原山地内外	-	1月発注予定	舗装改修	240	7.3	舗装工
14	平成28年度(国)457号(白沢工区)歩道改修工事その2	青葉区上愛子字折葉地内	-	1月発注予定	歩車道 ブロック入替	180	-	縁石工
15	27国災第6701号(市)大竹原高野原1号線橋梁災害復旧工事	青葉区芋沢字大竹原地内	-	11月契約締結 依頼済	災害復旧	5	-	ブロック積工、舗装工
16	27国災第6702号(市)中原鳴合線橋梁災害復旧工事	青葉区芋沢字大堀地内	30,456	H28.11.1 ～H29.3.31	災害復旧	17	-	橋梁架設工、ブロック積工
17	(市)白木線道路災害復旧工事	青葉区大倉字白木地内	2,700	H28.9.2 ～H28.12.16	災害復旧	60	-	法面工
18	(市)本郷線道路災害復旧工事	青葉区芋沢字本郷地内	2,916	H28.9.28 ～H29.1.31	災害復旧	7	-	法面工
19	(国)457号道路災害復旧工事(その2)	青葉区芋沢字平沢地内外	17,496	H28.11.21 ～H29.3.31	災害復旧	61	-	盛土工、法面工

※契約締結依頼済とは、今後入札などが行われる予定の工事であり、不発などの可能性がありますのでご注意ください。

今回は東日本大震災から5年の節目を迎え、 仙台市の復興に関わる諸問題に対する諸施策を検証しながら、 その仕上げとポスト復興を見据える観点から 新しい学校教育の考え方を提案する。

これからの学校教育の 振興に関する施策について

第一回定例会
一般質問



田んぼアート

奥山市長は「多様化、複雑化する様々な課題や事態に適切に対応していくためには、市長部局と教育委員会がお互いにその接点を意識し、焦点を当てながら共通の認識を持ち、連携を深めていく必要があります。」と述べております。これからの学校教育の振興に当たって、従来と異なった視点で考えようとしているものと受け止めております。

— Q — 加藤 和彦 議員 — A — 加藤 和彦 議員

論理学が抜け落ちた日本の教育
社会状況が大きく変化の中で、子どもたちが社会の中で自立し、たくましく生き抜いていくためには、基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現

力などの応用力、主体的に学ぼうとする学習意欲を育む必要があると指摘しております。
私は子どもたちが学習を進める中で、さらに基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力などの応用力、主体的に学ぼうとする学習意欲を育む上で必要な意見を論理的に整理し、順序づけして述べる訓練を重ねて行って「議論が苦手」から「議論が自由」になる「子どもにも成長してほしい」と考えております。
従来、明治以降の日本の近代化プロセスは「欧米列強に追いつけ追い越せ」だったので論理は関係なく、先行して出ている答えを頭から丸呑みした方が手っ取り早いのです。それで日本の教育体系から論理学は全く抜け落ちてしまったと考えても矛盾はないと考えています。
この点について当局のご見解をお伺いします。

— A — 仙台市長

学校教育に関し、縷々ご提案を頂いたところでございます。
これまでの学校教育につきましては、昭和の高度経済成長期などは、系統立てた、いわゆるカリキュラム的な学習を重視した、どちらかと申せば知識詰め込み型の教育と言われた時代もありましたし、また平成に入りまして、学校週五日制導入の頃には、「ゆとり」の中で「生きる力」を育てていく必要性が掲げられたと、こうしたこともございました。
このように学校教育は、時代背景や社会の要請を反映しながら、常に、次代

を担う子どもたちに必要な力とは何かを見据えて、教育現場においてたゆまぬ実践を重ねて参ったと、私はそのように認識しております。
近年、グローバル化、情報化、価値観の多様化等が急激に進展する中、これからの社会を生き抜いていくために新たな方向性として、主体的、協働的な学びによる確かな学力の育成が求められてきております。
また、一人ひとりの子どもたちが自ら人生を切り開いていくための、豊かな人間性を培うことも必要であると考えております。

— A — 教育長

学校教育における論理的な考え方の育成についてのお尋ねでございます。
近年は、この変化の激しい社会を生きていくために、物事について筋道を立てて論理的に考える力や、他者に対して根拠とともに論理的に説明する力など、いわゆる思考力、表現力の育成が必要とされており、現行の学習指導要領にも明確に示されています。
今後とも論理的に考える力の育成につきましましては益々重要になってくるものと認識しているところでございます。

— Q — 加藤 和彦 議員 — A — 加藤 和彦 議員

市では、教職員が育った時代と現在では子どもたちを取り巻く社会状況や家庭環境が変化し、教職員に求められ

る役割が多様化、複雑化しており、実践的な指導力向上のための研修を充実させ、また教職員一人一人が自己研さんして絶えず資質、能力向上に努めるとともに学校教育に携わる者としてしっかりと自覚の上に立つて行動することが求められていると分析しております。
情報化の急速な進展により、インターネットやスマートフォン等を通じたコミュニケーションが進む一方で、価値観やライフスタイルの多様化などにより地域社会のつながりや支え合い、人間関係の希薄化が進んでいることは当局の指摘のとおりです。

そこで教職員は自己確立をして社会を見る目を保持する、また先を見据えた手を打つことを身につけることが必要です。そのためには自分の活動が理にかなっているかどうか検証しながら進む考えが必要だと考えます。つまり論理性を発揮できるように研さんを積む習慣を持つことが大事だと考えます。
この考え方は表に出る機会が少ないようですが、将来の教師像にはなくてはならない分野だと考えております。これについて当局の考えをお伺いします。

— A — 教育長

教職員の資質向上の方向性についてのお尋ねでございます。
児童生徒に思考力や判断力、表現力などの応用力を身に付けさせるためには、教職員自らが論理性をもって教えることは、教師像としても必要なものであると認識しております。
現在、教育センターの研修では、論理的な思考についてグループ討議により学んだり、研究授業の中で教職員が論理性を

磨いたりすることに取り組んでいるところでございます。
今後とも論理性や自律的に学ぶ姿勢を身に付けさせるため、教職員研修の充実に努めてまいります。

— Q — 加藤 和彦 議員 — A — 加藤 和彦 議員

文部科学省の10年先に向けた学習のあり方
教職課程企画特別部会の論点整理が次のように発表されました。
ア) 社会に開かれた教育課程

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指すという理念を持ち、教育課程を介してその理念を社会と共有していくこと
- ② これからの社会を創りだしていく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合っていくために資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していくこと
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図り、学校教育を学校内に閉じずに、社会と共有・連携しながら実現させること

イ) 育成すべき資質・能力

- ① 何を知っているか、何が出来るか(個別の知識・技能)
- ② 知っていること、出来ることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送れるか(主体性・多様性・協同性・学びに向かう力・人間性など)

ウ) アクティブ・ラーニング

- ① 取得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らに考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

エ) カリキュラム・マネジメント

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること

10年先には全国の教育課程はこのようになると構想していますが、それでは現在の教育課程は急速に切り替えるわけにはいかなないので、段階的にしかも順序づけをしながら総合的に進めていくのが妥当であろうと考えます。
仙台市としては、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスをよく身に

つけ、社会的に自立するとともに、国内外を見渡す広い視野を持ちながら、自分の夢や希望に向かって行動する力を引き出す教育が必要だと表現しています。
教職員については、教育のプロフェッショナルとして教科に関する高度な専門的な知識や様々な教育課題に対応する実践的指導力の力量を高め、使命感と責任感を持って子どもたちに向き合うことが出来るよう、研修の充実と自己研さんの取り組みを支援し教職員全体の資質向上を目指しますと述べています。
私は「確かな学力」を支える問題分析は、問題の底にある課題を探ることその捉え方を論理的に行うことにより促進されると考えており、大局的な見方にしてその分析力が大切で、事実上立脚した証拠固めによる確信を持った把握力が論理の展開に必要であることは当然です。教職員がそれを身に付けていなかったら子どもたちに求めることは難しいと考えます。
このことについて当局の見解と今後の進む方向をお伺いします。

— A — 教育長

教職員が問題の分析力を身に付ける事についてでございます。
児童・生徒に、論理的な思考力等を育むためには、教職員自身が、教えるべき内容を分析し、その教材の本質を明確にしながら、単元の構成や指導方法についての確に把握し、組み立てる力が求められるものと認識しております。
教職員一人ひとりの自覚のもと、自らが問題を深く読み取り、根拠をもって論理的に課題を把握できる分析力を、今後、一層高めてまいりたいと存じます。

現場から見た新しい学習指導法の探求について

第一回定例会 3 一般質問

我が母校である広瀬小学校には、毎年行事等で招待を受けそのたびに感じるのは、以前と雰囲気変わったことです。子どもたちが生き生きとして大声で挨拶するし、笑い声が絶えないこと、よく話すこと、みんな仲間であるように見えることなど。電子機器多用のような子はこのよきな姿には慣れないと感じます。聞くところでは、実物・事実・地域の方などを学習材として子ども自身が選び、様々な気づきを持ち合わせて話し合って更に高め合う「生活科」総合的な学習の授業に熱心に取り組んでいる成果だと考えます。昔の授業は先生が一方的に説明し、子どもはそれを理解して試験の成績が良ければよしとしたものですが、それを活かす道は教えなかった。こうした反省から、私は現在取り組んでいる子ども主体の学習について質問を試みたいと存じます。

加藤和彦議員 思考力・表現力を育てる授業づくりに
たどり着いたことについて
平成21年に愛子小学校の分離開校を機



加藤和彦議員

OECD生徒の学習到達度調査結果から将来に向けて

第一回定例会 2 一般質問

加藤和彦議員 ① 各分野の定義について
② 数学的プロセスにおける日本の特徴について
③ 科学的リテラシーの習熟度について
④ 世界的な学習能力の見方と育成方向について

① 数学的リテラシー(読み書きの能力)とは様々な文脈の中で定式化し、数学を適用し、解釈する個人の能力であり、数学的に推論し、数学的な概念・手順・事実・ツールを使って事象を記述し、説明し、予測する力を含む。これは個人が世界において数学が果たす役割を認識し、建設的で積極的、思慮深い市民に必要な確固たる基礎に基づく判断を下す助けとなるものである。
② 読解力とは自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力である。
③ 科学的リテラシーとは(個々人の次に能力に注目する)
○ 疑問を認識し、新しい知識を獲得し、科学的な事象を説明し、科学が関連する諸問題について証拠に基づいた結論を導き出すための科学的知識とその活用
○ 科学の特徴的な諸側面を人間の知識と探求の一形態として理解すること
○ 科学とテクノロジー(科学技術)が我々の物質的、知的、文化的環境をいかに形に作っているかを認識すること
○ 思慮深い一市民として、科学的な考えを持ち、科学が関連する諸問題に、自ら進んで関わること

② 数学的プロセスにおける日本の特徴について
○ 3つのカテゴリ(範疇部門)「定式化」「適用」「解釈」、及び数学的な内容の4つのカテゴリ「空間と形」「変化と関係」「量」「不確実性とデータ」について日本の特徴は、「空間と形」の下位層は65カ国中少ない方から2番目だが、「量」については日本の他のカテゴリに比べると上位層の割合が少ない。
○ 読解力では日本は上位層が多く下位層が少ない。男女別では女子の方が上位の習熟度レベルの割合が多いが、参加65カ国すべてにおいて同様である。

③ 科学的リテラシーの習熟度について
日本は習熟度レベル5以上の生徒の割合が多く、レベル1以下の生徒の割合が少ない。男女別では男子の方が差が多い。
④ 世界的な学習能力の見方と育成方向について
日本の教育の偏りは論理学の欠落だと指摘してきましたが、数学の学習において習熟させる道があることをこの調査から知ることが出来ます。理詰めで考える、話を聞く、それを聞く能力が高まることによって欧米の教育の原点に並ぶことが出来ると考えます。ただ、それを習慣化するには相当鍛え込まなければならぬことも事実であります。

加藤和彦議員 「議論が苦手」から「議論が自由に出来る」子どもに成長させることについて
子どもたちの発表や討論を見ると、元気がよく大声で発表している方に集まってくる傾向があり、声が大いなのは自信があるからだと思う子どもが多いのではないだろうか。話し手がいれば聞き手もいるわけ、お互いに立場を交換しながら議論する習慣を築くことが必要であると考えます。そして話の内容を検討する発言が必要で、また発言していかない子どもの発言を促すことも覚えなければならぬと考えます。すべてのグループ員に公平に発言させ考え合って結論を得ればみんな喜んでそれを支持すると考えます。このことについて当局の見解をお伺いします。

に、広瀬小学校の特色を発揮した学校の再生を目指して、子どもたちの実態や広瀬小学校の生活科・総合的な学習の時間の課題等から年々反省と検討を加え、子どもあつての授業という立場で見直し、自ら学びを拓く子ども像を築き上げたことと発表しました。私の目ではその練り上げ方のすばらしさに驚嘆しました。様々な助言や指導があつたにせよ、教職員の方々の研究心に心から賛辞を捧げます。当然当局もその中で必要な助言をしてこられたと存じますが、その経過について当局の立場からご説明をお願いします。

加藤和彦議員 子ども中心の単元づくりの構想について
先ず教材と言わず学習材と呼んで立場を明確にし、子どもの思いや願いを活かす工夫として、栽培ならば自分で育てたいと思う花や野菜を選び、育てる中で様々な体験をし活動して成長することを狙い、教師は側面援助に徹していく立場で単元を構成する。これは言うは易し行は難しのことわざどおり、教師が変身しなければならぬ豊かな取り入れて体験や出会いを重ねて、本物に触れながら、確かな自らを拓く学習をさせようとしていることは素晴らしいと思います。生活科・総合的な学習はそのために設けられた時間なので、その趣旨を全うしていると考えます。

加藤和彦議員 世界では通用しない習慣を持つていて、今もそれが改善されないことを指摘されているが、なかなか改善されていない状態です。そこで一石を投じたのが子どものうちから変えていこうという発想で教育が進められていると考えます。子どものうちはよく話しますが、成長とともに無口になるといふ生徒が見受けられますが、いかに言語活動の失敗が重なって生じた現象ではないかと危惧します。思考力・表現力を育てることを目指しても、自分で考えを論理的に整理し発表しやすい内容にまとめいく力が育たないと成長が滞る心配があります。自分たちの過去を振り返ると大きな損失があったと悔やむことがあります。これから即座に話すことだけでなく熟慮して発言する訓練も大事ではないかと考えます。一方聞き上手になる努力を積まないと他の子どもたちの発言の真意を受け止められないで過ごしてしまう懸念もあります。こうした事象について当局のご見解をお伺いします。

加藤和彦議員 「議論が自由に出来る子」の育成について
その育成のためには、適切にグループ学習を取り入れ、互いの考えを述べ合うことを通して、自己の考えを広めたり、深めたりすることが有効な学習活動であると認識しております。発言をすることが苦手な児童生徒には、段階を踏まえた話し合い活動を取り入れるなど工夫し、どの子どもも満足した議論ができるように配慮していくことが大切であると考えております。ただいま、論理性や言語活動、議論の大切さなどの課題について、種々、ご質問をいただきましたが、今後とも、子どもたちの論理的な思考力や豊かな心の育成を図るために、教育委員会といたしまして、引き続き取り組んでまいりたいと存じます。

加藤和彦議員 広瀬小学校が思考力・表現力を育てる授業づくりにたどり着いた経過について
広瀬小は、平成20年度、国の研究事業の指定を受けて以来、平成27年度まで、一貫して、生活科と総合的な学習の時間の授業づくりの研究に取り組んでまいりました。当初「子どもが意欲的に学ぶ」という点を課題としておりましたことから、教育委員会といたしましては、子どもたちにとって身近な地域の素材である、お祭りや伝承太鼓、蕃山などを学習材として取り上げてきたことの重要性を評価し、子どもたちの学びに向かう力をさらに引き出す授業づくりの必要性について助言してきたところがございます。なお、広瀬小では、昨年12月の東北地区公開研究会の開催に引き続き、今年6月には、全国規模の公開研究会を開催し、子どもたちの思考力・表現力を育てる取組の一端を全国に向け、発信する予定でございます。

加藤和彦議員 生活科や総合的な学習の進め方を各教科に生かすことについて
各教科の学習におきましても、子どもたちの深い理解を促すためには、学習内容に対する興味を喚起し、問題意識を高めることは必要であり、子どもたちと地域とのつながりを意識しながら、地域の素材を学習材として授業で活用したり、地域の方々との体験活動を授業に取り入れたりと、どのような工夫は重要であると考えております。

加藤和彦議員 言語活動を盛んにして思考力・表現力を育てることについて
言語活動は全ての学習活動の基盤となるものでございます。このことから、どの教科においても、発達段階に応じて、記録、要約、論述することなどを取り入れながら、じっくりと考察させることや、それらをもとに、グループでの協議や討論などを通じて相手に伝えるための表現力や他者の意見を理解するための聴く力や他者の考えを積極的に実践していく必要があると考えているところでございます。

加藤和彦議員 言語活動を盛んにして思考力・表現力を育てることについて
言語活動は全ての学習活動の基盤となるものでございます。このことから、どの教科においても、発達段階に応じて、記録、要約、論述することなどを取り入れながら、じっくりと考察させることや、それらをもとに、グループでの協議や討論などを通じて相手に伝えるための表現力や他者の意見を理解するための聴く力や他者の考えを積極的に実践していく必要があると考えているところでございます。

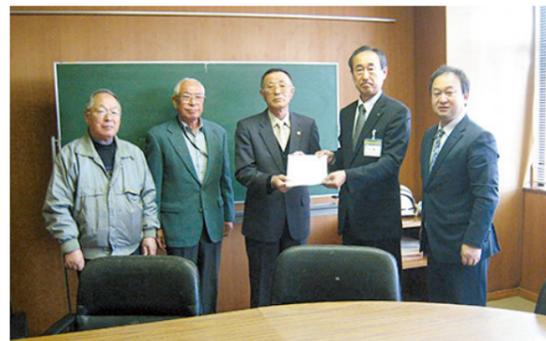
愛子地区バス停留所の新設について

次回ダイヤ改正(平成29年4月予定)において、以下のとおり停留所を新設する予定としております。



落合橋建て替え改修要望書を仙台に提出

落合栗生連合町内会長さんたちと一緒に仙台市に落合橋拡幅の早期解決への要望を提出しました。



落合児童館改め、栗生児童館 平成29年4月開館

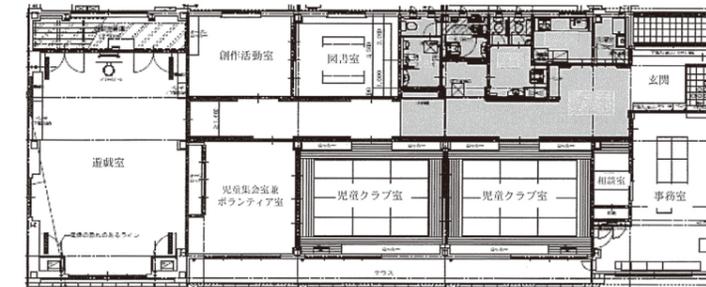
1.改築工事の概要について

- 現在の施設(木造361.94㎡)は、昭和49年3月に建設され、42年が経過し老朽化が見られることから建替え(移転改築)を行います。
- 新しい施設は、栗生小学校の南側に建設します。
- 建設工事は、平成28年8月下旬から平成29年3月まで行い、平成29年4月に開館する予定です。現在の施設の解体及び新施設周辺の緑化工事は、平成29年度中に行う予定です。
- 新施設は、延床面積が379.89㎡の鉄骨造り平屋建てで、居室の構成としては遊戯室、図書室、自動集会室(兼ボランティア室)、創作活動室、児童クラブ室2室、事務室、静養室、男女別トイレ、ひろびろトイレが設置される予定です。

新施設設計場所



新施設平面図



2.新施設の概要について

室名	室名	概要
遊戯室	約80㎡	児童等の動的な遊びや多人数の行事等に使用します。軽運動場としての機能も持ちます。
児童クラブ室	約80㎡(40㎡×2室)	共働き等で放課後に保護者が不在となる小学生(児童クラブ登録者)のための部屋です。
図書室	約40㎡(20㎡×2室)	児童書を中心に揃えます。
創作活動室	約40㎡(20㎡×2室)	児童等の活動の場となるほか、中高生等の創作活動や集いの場ともなります。
児童集会室兼ボランティア室	約25㎡	児童等の活動の場となるほか、集会等にも活用します。
事務室	約35㎡	
相談室	約6㎡	利用者の相談スペースとして使うほか、体調の悪い児童の静養室としても機能します。
トイレ		男子用、女子用、ひろびろトイレ ベビーチェアやベビーベットも設置します。
外構		駐車場(身体障害者用含め4台分)を設置するほか、植栽もします。